日本で唯一現存するたたら製鉄工場「菅谷たたら」の文化財保存工事

Preserving Work on “SUGAYA TATARA” Cultural Assets,
the Only Extant TATARA Ironworks in Japan

桑　原　義　晴[※1]
Yoshiharu Kuwabara

【キーワード】　文化財保存　たたら製鉄　山内　高殿

１．はじめに

日本の製鉄文化の基底には自然の中で長く培われた製鉄技術の歴史と伝統がある．その中にあって「菅谷たたら」は全国で唯一現存する「山内（さんない）」（たたら製鉄に従事していた人達の職場や居住地を総称する言葉）として重要有形民俗文化財に指定されている．

当工事は「山内」のうちの「高殿」（製鉄工場），「元小屋」（鉄の管理，選別），「米倉」の保存修理を行った．

本稿では，その中の「高殿」について報告する．

２．工事概要

工事概要を以下に示す．

工 事 名：菅谷たたら山内保存修理工事
発 注 者：雲南市
設計監理：㈱文化財保存計画協会
施 工 者：飛島建設株式会社
施工場所：島根県雲南市吉田町吉田地内
工　　期：平成24年9月～平成30年10月

３．保存修理工事

保存修理工事は，破損の調査と保存整備審議会の審議を経て進められた．施工は文化財の保存工事施工実績のある専門業者を採用して行った．

3.1　仮設工事

建物全体を素屋根（仮屋根）で覆った．素屋根は，外部枠組足場の上部に鋼管パイプでトラス梁を架構した．積雪1.5mの地域であるため，約3mの梁成のトラス梁として対応した．建物地下部分に埋蔵文化財があるため地盤の養生を行い施工した．

3.2　解体工事

解体工事にあたり，野帳取りと必要に応じて部材に番付を行い，破損状況の調査を行いながら解体を進めていった（**写真－１，写真－２参照**）．

写真－１　解体工事（屋根架構の撤去）

写真－２　解体工事（外壁腰見切解体）

3.3　木部修理工事

解体部材の調査結果から，腐朽している部分のみを修理・交換した．修理できない部材については同種の木材を伝統技法の継手で繋ぎ，表面の仕上げは「手斧（ちょうな）」を施した．

3.4　左官工事

内外壁の土壁は，解体した壁土のうち再利用できるものは利用し，不足分は裏山から土を採取し，藁を混ぜ寝かせて，壁土として利用した．壁下地の「木舞（こまい）」は，竹を割った「竹木舞」あるいは雑木を割った「粗朶木舞（そだこまい）」とした（**写真－３参照**）．

1.九州支店　菅谷たたら作業所

写真－３　粗朶木舞への壁土塗状況

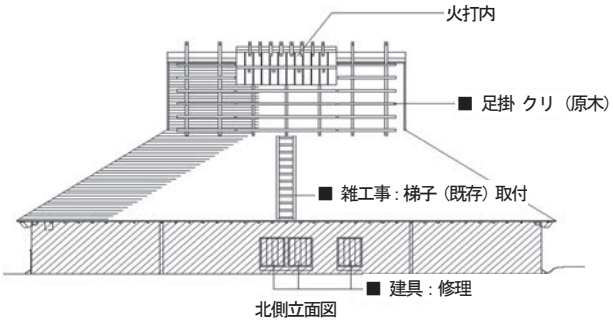
3.5　屋根工事

屋根は「柿葺き（こけらぶき）」で，栗の木を割って100mm×300mm×5mm程度の短冊状にしたものを，竹釘を使って張り付けていった．柿の材料は高殿だけで13万5千枚を要した（**写真－４参照**）．

写真－４　屋根柿葺き状況

3.6　復元

高殿には，操業当時に「火打内（ほうち）」と呼ばれる屋根頂部の開口が存在した．火打内は屋内の熱気を建物外部に排出するための役割を担っていたが，操業停止後に撤去されていた．本工事において，古写真や類例調査を経て復元した（**図－１，写真－５～写真－７参照**）．元小屋，米倉も同様の手順で保存修理工事を行った．



図－１　復元立面図

写真－５　着手前 高殿外観

写真－６　復元後 高殿外観

写真－７　内部から火打内を見上げる

４．おわりに

「菅谷たたら」は，平成26年に高殿の，平成29年に元小屋の保存修理工事が完了し，現在一般公開されている．平成28年4月には，近隣施設と併せて「出雲國たたら風土記」として日本遺産に認定され，ＪＲ西日本の豪華列車「瑞風」乗客の観光コースにもなっている．昨今の文化遺産継承の機運から，石見銀山とともに島根県観光での注目の施設になると思われる．

本工事は本稿執筆中の平成30年7月現在も米倉補修工事として施工中であり，残す工事を無事で完了する所存である．

謝辞：本工事施工に対しては雲南市教育委員会の皆様をはじめ，工事関係者の皆様にご指導ご協力をいただきました．ここに記して感謝の意を表します．